自己評価および外部評価結果

自	外	-= -	自己評価	外部評価	т
三	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.£	里念し	- 基づく運営			
1	(1)	〇理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	社是を大前提とした上で開所前の研修で、	社是を基本に開所時から掲げている理念は、普段の取り組みの中で、認知症の方でも特別ではない、少しの手助けであたりまえの生活を送ることができるを念頭にしている内容である。職員にも理解浸透され日々の支援にあたっている。	
2		〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	運営推進会議に自治会長、民生委員に参加してもらっている。また、3F多目的室の地域住民の利用もあり、ボランティア等、様々な交流を図っている。	事業所は町内会に入会し、「秋祭り」には利用者と共に参加したり、事業所3階を地域住民に開放し民生委員主催の「地域の茶の間」を開催するなど、地域の方と交流を図ることに積極的である。市街地の住宅街という地域性もあり、地域住民との多くの関りはないが、事業所としては、いつでも気軽に立ち寄ってもらえるよう地域に開かれた事業所を目指し活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	地域住民に多目的室を開放している。主には地域のお茶の間サロンや自治会会合で利用しているが、利用者の離接があった際、多目的室を利用したことのある地域住民が保護し、連絡をくれた。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	6
己	部	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	家族の参加が少なく、自治会からの参加も 少なくなってきているが、多目的室を利用 し、ボランティアや行事で交流のあるお茶の 間サロンからの参加があり、様々な形での 交流を提案してもらえる。家族の参加増に ついては、工夫をしていかなければならな い。	2ヶ月に一度開催される運営推進会議には事業所として、さまざまな参加者を募り意義ある会議となるよう努めている。現在、利用者家族や地域住民からの参加が毎回となっていない現状を何とかしたいと模索しているところである。他法人の同業事業所からの参加や家族の参加時には意見をもらい支援に反映させている。例えば事業所職員の交代に当たっても、今まで通りの対応の希望や災害時の備蓄等の話し合いがなされている。	
5		〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告を通し、事業所の実情や方針を伝えることができ、様々な助言をもらっている。 不明な点など丁寧に教えてもらっている。	市の担当者とは必要に応じて連絡を取り合って制度上についての助言や不明な点の確認等を行っている。また市の委託を受けた介護相談員が毎月訪問し、利用者と面談し、職員が気が付かない利用者の変化や、職員以外に発せられる声等、何かあれば伝えてもらえる協力関係は築かれている。	
6		〇身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して おり、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア に取り組んでいる	日中、ユニット出入り口、原則的に玄関の施 錠はせず、入居者に閉塞感を与えないよう 努めている。但し、離接等の危険回避のた め、玄関に赤外線センサーを設置している。	身体拘束をしないケアについては法人として明文化しており、委員会活動、研修等定期的に実施するなど、職員全員が理解し日々の支援の指針となっている。研修会は年2回実施されており、事業所内部、法人内のグループホーム全体での外部講師による研修会が開催されている。チェックシートを活用し普段の支援の中でも、何が拘束にあたるのか振り返る機会も設けている。	
7		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業者は、職員の研修体制を整えており、 内外部の講師にる研修を行っている。また、 職員のストレスにも注意し、対応、防止に努 めている。	身体拘束をしないケアとともに研修会に職員が参加し、虐待の定義は理解できるよう努めている。放置ではなく距離を置く支援を心掛け、利用者のできる力を大事にしている。管理者は職員のストレスにも注意し、日頃の職員の様子に気を配り、いつでも相談しやすい雰囲気づくりに努めている。	

自	外		自己評価	外部評価	西
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	事業者は、職員の研修体制を整えており、 内外部の講師にる研修を行っている。また、 実際に後見制度を利用している利用者がお り、現場でも制度を学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明を行い、ホームでの対応範囲や困難な場合についても説明を 行い、納得してもらっている。		
		〇運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催したり、運営推進会議に家族 より参加してもらい、意見、要望等を直接聞 く機会を設けている。また、管理者は、利用 者との関りの中で意見や要望を聞き、職員 と協議し、実現に向けて迅速に取り組んで いる。	「夏祭り」に合わせて家族会を開催しており、 多数の家族の参加をもらっている。家族の9 割は地元在住であるため面会も頻繁にあり、 意見要望を聞く機会は多くあるとのことであ る。家族からの意見は24時間いつでも伺う 体制がとられている。管理者が窓口となり一 括して把握し、職員とともに検討しながら、運 営に反映されるよう努めている。各職員は家 族が相談しやすい雰囲気を心掛けており、小 さな事でも見逃さない対応がなされている。	
11	, ,	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員会議の出席や、日々の朝礼等で、職員から直接意見等を聴き、吸い上げるよう努力している。また、管理者は月に1度の本社会議や定期報告にて、代表者に職員の意見等を伝える機会がある。更に、職員から取締役への直通ホットラインを設けている。	日々の支援の中で職員が迷う場面は多々あるが、管理者はその都度耳を傾け、必要事項は時間を置かず職員と共に検討し支援に活かすよう努めている。職員の意見は管理者を通して法人に伝える機会や、法人上層部に直接繋がるホットラインを設けている等、現場職員の意見は、事業所を含めた法人としても大切に考えている。	

<u> </u>	ы		自己評価	外部評化	
自己	外部	項 目	実践状況	実践状況	ш ┃ 次のステップに向けて期待したい内容
12	П	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・	代表者は全職員に資格取得を奨励し、資格 取得者には祝い金や資格手当を支給し、励 みとなるような制度を設けている。また、夏	关战状况	次のスプラブに同じて捌付したい内容
13		条件の整備に努めている 〇職員を育てる取り組み	季休暇(3日)冬季休暇(3日)を支給している。		
		代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	代表者は、職員教育担当者を決め、サービスの質の向上に取り組んでいる。教育担当者は、各管理者へ個々の力量の把握を指示。能力に合わせ個別に指導している。また、外部の研修参加へも研修費の助成を行うなど、推奨している。		
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議参加をお願いするなど、お互いに、相談・意見交換のできる事業所がある。また、利用者の支援を通して相互訪問を行う等、協力体制をとっている。		
II . 2	え心と	★信頼に向けた関係づくりと支援 ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問し、家族の意向や本人の気持ちを伺い、安心して暮らせる為の関係づくりに 努めている。		
16		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	入居前に家族と話し合い、今までの生活状況や、素案に思っている事等、聞き取りをしながら関係を築けるよう努めている。		

-	ы		自己評価	外部評価	
自己	外 部	項 目	日島計画 日島計画 実践状況	実践状況	Ⅲ
17		〇初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いが異なる事もあるが、双 方が安心してサービスを受けることが出来 るよう、間に入り調整しながら方向性を見つ ける努力をしている。	美成状况	次のスプックに向けて耕有したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の生活を支えるという事を 重視し、本人のできること、介助すれはでき ることを見極め、生活全般に関わる物事に 対し、その方に応じた支援方法を行ってい る。		
		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	月に一度、ホームでの様子を伝える手紙を 居室担当者より家族宛てに送っている。ま た、受診同行や不足物品の補充等、可能な 限り支援をお願いしている。	利用者本人にとってかけがえのない存在である家族は、利用者を支える第一人者と捉え、職員は家族の関りを大切に、やりすぎない支援を心掛けている。頻回に面会に訪れ利用者が安心できるようにしている家族、受診の同行、外泊、外出に誘う家族、衣替えや日用品の買い物など、それぞれの家族にはできる範囲での支援をお願いしている。事業所からは毎月、事業所内の様子を個別に記入し家族に送り、より身近に感じてもらえるよう努めている。	
20	, ,	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族、友人、知人が訪ねてきた際の他入居 者を含めたおもてなし等で、次回も訪れやす い雰囲気作りを大切にしている。	事業所では来客セットとして小さなテーブルにお茶を準備し、面会に来られた方を利用者と共にもてなし、いつでも来てもらえるような雰囲気づくりを大切にしている。家族に確認し友人宅の訪問に同行、馴染みの床屋への送迎、昔食べに行っていたラーメン屋に利用者と出かけたり、お寺参りへの同行等々、希望があればできる範囲で支援し馴染みの関係継続に努めている。	

白	外		自己評価	外部評価	
自己	部	項 目		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	個々の心身の状態や対人関係を観察しな がら、時々で間に入るなど、和やかな雰囲 気が作れるよう支援している。	美政 状况	次の人)うりに同じて対抗したいでは
22		の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節のお便り等を通し交流を続けている。 退去後でも相談があればお話ししている。		
Ⅲ.	その	人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン			
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	何気ない会話や言動の中にヒントを見つけ、思いに添った支援が出来るよう心掛けている。また、家族と管理者、職員との会話の中にも様々な情報を見出し、支援に役立てている。	入居前の自宅訪問時に基本情報シートを基に、本人、家族から思いや意向等を詳細に聞き取っている。また、本人の実像を手書きして観察ポイントや気になる点、注意してほしい点を書き込み、入居後もその人らしい生活が送れるように情報を把握している。日々の生活に寄り添い、目線を合わせることで見えてくる、新しい情報や気付きは申し送りノートに記録して全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の家族、本人への聞き取りや、普段 の会話の中から把握できるよう努めている。	入居前に確認したシートを活用して、本人の生活リズムを大切にしている。前任のケアマネージャーからも情報を提供してもらい、在宅での暮らしを方を把握している。従前のサービス事業所に訪問して経過等を把握している。入居することの環境の変化の重要性を受け入れ、一人ひとりの思いに寄り添いその人らしい生活が送れるように支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに目を向け、小さい気付きを積み 重ね、情報の共有をし、個々の把握に努め ている。		

自	外	-= D	自己評価	外部評価	ш Т
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	計画作成担当者は、本人、家族、職員から 聞き取りを行い、検討会を開催している。意 見を反映させた計画づくりに取り組んでい る。	本人、家族の意向を確認して、入居後1ヶ月程は暫定プランを作成し、日々の生活から見えてくる本人の思いや必要な支援、カンファレンスでの意見を参考に、ケアマネージャー、計画作成担当者が中心となり本プランを作成している。毎月モニタリングを実施し、年に1回プランを見直し現状に即した介護計画を作成している。担当者会議には家族からも参加してもらい意見や思いを確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の介護記録を個別に作成している。 特変時等には別に記録をし、申し送りも行 い、情報の共有をしている。		
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の支援が受けられない利用者に対し、 墓参り同行支援や、配偶者入所施設への訪 問同行等、時々の個々のニーズに寄り添っ た支援を行っている。		
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお茶の間サロンとの交流や、地域行事への参加。近隣の保育所との交流。新潟市音楽芸能協会の出前ステージを活用し、郷土芸能を鑑賞する等、楽しむ機会を設けている。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	<u> </u>
己	部	块 口	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している		本人、家族が希望するかかりつけ医を尊重している。受診時には医療と介護連携表を提供して主治医との連携が図られている。本人の状態や家族の背景から受診が困難な場合は往診対応も可能である。週1回、訪問看護師から健康管理、主治医との連携、24時間のホットライン、専門医への受診の助言や家族への状態説明等も行っており、適切な医療が受けられるように整備されている。また、かかりつけ薬局の薬剤師から薬の管理や配薬の支援も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	契約している看護師が定期訪問しており、 日頃の様子や状態を把握しやすいよう、専 用の用紙を使い、お互いに情報を共有して いる。24時間のホットラインもあり、いつでも 助言、指示を貰える。また、往診時の同席 や、家族への状態説明等も行っており、協 力体制も整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	医師やソーシャルワーカーに情報交換や相談の機会を設けてもらえるようにしている。 入院中は出来る限り面会に訪れる事で、安心してもらえるよう配慮している。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	5
自己	部	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	月の手紙や、訪問時に行い、状態に変化の あるときには、密に状況説明を行うよう努力 している。また、重度化した際の医療への繋	得ている。法人内での研修会に参加し終末 期ケアについては全職員が修得している。本	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	護師による緊急時対応の研修も計画している。	力を身につけている。看護師からも観察ポイ	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている		年2回、昼夜共に想定した避難訓練を実地している。また、地域の合同避難訓練にも参加して顔の見える関係を築いている。地震、水害等のマニュアルも整備され、避難方法や避難場所も修得している。非常食や備品も整備され、2ユニットとの協力体制、フローチャートも整備されている。	備や備品・備蓄の見直しなどの災害

白	外		自己評価	外部評価	
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV.	その				
36		〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の方としてではなく、一人一人の人格を大切にした声掛けを行っている。また、外部講師による研修を行い、実践に生かしている。	年間計画により研修会は実施している。一人 ひとりに合った言葉かけに配慮し自尊心を傷 つけない対応に努めている。不適切なケア時 にはその場で注意し合ったり、振り返りをして お互い注意喚起を心掛け、全職員で心温ま る対応をしている。日々の記録や利用者情 報の管理も責任ある取り扱いが行われてい る。	
37		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	入浴時の衣類を共に選ぶ等、様々な場面で 自己決定出来るよう働きかけている。当日 のスタッフの体制にもよるが、個別の支援も できるだけ行うよう心掛けている。		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に、全ての介助に置いて無理強いは せず、希望に沿って行っているが、適切な時 間での声掛けは行っている。		
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	日々の着衣はもちろん、外出の際には身だしなみを整えられるよう支援している。また、 化粧や白髪染め等、いつまでも若々しい姿でいることが出来るよう、ご家族にも協力を 頂きながら配慮している。		

自	外	D	自己評価	外部評価	T
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	野菜切る、炒める、和える、盛り付け、配膳 等々、自ら「手伝おうか」と声を掛けてくれる ことも多い。一回の食事の準備をたくさんの 入居者様が関わって行っている。	利用者と職員が同じテーブルを囲み会話を楽しみながらの食事となっている。食事の準備、配膳、後片付け等は自発性もあり利用者の出来る能力の維持に努めている。日曜日は好きなメニューで利用者と共に献立を作成している。また外食やお弁当、特別食の日の計画も用意されている。事業所では畑もあるので収穫祭を企画して、旬の野菜を調理して食べる喜びを醸し出している。	
41		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	毎食時の食事量のチェックや水分摂取量の チェックは一日を通して行っている。これらを 基に、個々に応じて、支援している。		
42		〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	個々の状態を見極め、毎食後、全員に歯磨 きの支援を行っている(声掛け、促し、見守 り、一部介助、全介助)。また、毎晩、義歯洗 浄剤を使用する場合の支援も行っている。		
43		〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の意思に沿い、トイレ誘導を行っている。また、失禁のある方についても、紙パンツや適切な尿取りパットの使用により、自立できている。清潔保持については、自尊心に配慮しながら支援している。	利用者本人の意思に添い、一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレで排泄できるように支援している。一人ひとりの習慣や表情、身体機能を理解し、さりげない声かけや羞恥心にも配慮し適切な支援が出来るように全職員が統一した支援方法を修得している。また排便チェック表も活用して、便コントロールにも配慮している。	

自	外		自己評価	外部評価	T
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	朝食時は胚芽押麦を白米に混ぜ食物繊維を多く摂取できる工夫をしている。また、水分摂取量のチェックは欠かさず行うなど、薬剤ばかりに頼ることのないよう、個々に応じた取り組みを行っている。		
45	(17)	〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている		入浴は午後からを基本としており浴室内の換気や冷暖房、補助具も整い安全に入浴できるようになっている。身体機能低下がみられる方にも安全、安心して入浴できるようにシャワーチェアやボードも整備されている。季節に応じて、ゆず湯、菖蒲湯などの変わり湯も楽しんでいる。	
46		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している	基本的に自由に過ごしてもらっている。日々のレクリエーション等も強制することなく、個人の意思を尊重しながら支援を行っている。但し、夜間の睡眠を気持ち良いものにできるよう、昼間の活動への参加促しは欠かさず、本人が自分の意志で参加できる為の声掛けを工夫している。		
47		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導を導入していることで、常に個々の薬についての相談ができ、より安全な服薬支援ができている。 副作用や、内服薬の変更時の助言や、医師との連携もスムーズに行えている。		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、個々の生活歴や日々の様子を観察や会話の中からヒントを見つけ、楽しみや気分転換が出来るよう、個別に合わせた働きかけを行っている。		

自	外	75 D	自己評価	外部評価	
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気や個々の気分に応じて外出の支援ができるよう努力している。散歩や買い物等、気分転換は都度行っている。また、希望に添えるよう、家族に相談したり、事業所の行事として立案するなど協力しながら支援している。	一人ひとりの希望に応じた外出は可能である。月1回以上は全員が外出できるように企画している。季節の行事やドライブ、買い物や散歩など、屋外に出て外の空気に触れることで気分転換を楽しんでいる。近隣の保育園児が来所して歌を披露したり、共にゲームしたりと和む企画も用意されている。また、家族の協力で外出、外泊も行われており、外出時や様々な企画時には思い出作りの写真を撮って、家族が来所した時に渡したり広報に載せたりと、元気で楽しく過ごしている様子を家族にも配布している。	
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より、小遣いを預かっており、必要な日 用品、衣類等は、外出時自由に買い物がで きるよう支援している。ご自身で少額を管理 している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	電話の取り扱いが難しい為、電話を取り次 ぐことや、かける為の支援は都度職員が 行っている。 手紙の投函や、必要物品の準備なども支援 を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		玄関にはスロープがあり利用者に優しい作りとなっている。共有スペースは明るく広すぎない空間が落ち着ける居場所となっている。各部屋に繋がる廊下の天井は吹き抜けで木の温もりを感じる。フロアや廊下には季節の飾り付けや、作品を展示して季節感を醸し出している。所々にソファーを置いたり畳のスペースがあり、一人ひとりが好きな場所で寛いで過ごされている。事業所内の温度、湿度も適切に管理かれ、快適な環境で安心できる生活の場所となっている。	

自	外 部	項目	自己評価	外部評価	
己			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	共用のスペースには食卓椅子の他、ソ ファーや、畳コーナーがあり、思い思いの場 所で過ごすことが出来る。		
54	(20)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	使い慣れた家具や道具を自由に持参してもらっている。職員が訪室する時は必ずノック、呼びかけを行っている。	入居の際は馴染みの物の持ち込みは自由となっている。本人、家族、職員と協力しながら使い慣れた家具、写真、日用品を持ち込み、環境を整えて、安心できる居室作りを心掛けている。居室内は収納スペースが広く整理整頓がなされている。部屋の掃除は個々の出来る能力を活かし、自立した生活が送れるように工夫をしている。週1回のリネン交換時には職員が部屋の掃除をして環境整備も実施している。	
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	場面場面で洗濯畳、料理作り、配膳、掃除等、個々の「できること」「わかること」を活かし、自立した生活が送れるよう工夫している。		